

「人生100年時代」の本当の
学びの形が、ここにある

「人生100年時代」には、「学ぶ」と「働く」が一体化してくる。いま、政府を挙げて「大人の学び」に取り組んでいます。経産省「人材力研究会」の議論を通じて浮かび上がってきたのは、一人ひとりの「体験総量」、そして「学びのOS」と「アプリ」のアップデートが「大人の学び＝リカレント教育」の鍵を握ることです。学び続ける力、learn how to learnを身に付ける観点からも、クロスフィールズが生み出していく「学び」に大いに注目しています。



経済産業省 参事官
伊藤 禎則さま

互いの成長に貢献しあう
「Value Partner」としての期待

通常ボランティアのマッチングは運任せなところになりがちなところを、クロスフィールズから派遣される日本企業の社員の方は常に私たちの期待を大きく上回ってくれます。その経験・姿勢・アウトプットを考慮すれば、彼ら・彼女たちは「ボランティア」と呼ぶよりも、まさに「チームメンバー」だと考えています。クロスフィールズは単なる仲介役ではなく、受入先団体と留職者寄り添って伴走を続け、win-winの結果と価値とにコミットしてくれる大切なパートナーだと思っています。



Fargreen, JSC CEO & Founder
Trang Tranさま

日本の働く人にとっての
「情熱の魔法瓶」として更に発展を!

残念ながらやる気がなくなっていく企業人たちを、僕はたくさん見てきました。それが悔しくて、パナソニックではOne Panasonicを、そして企業の枠を超えてOne JAPANを立ち上げました。小沼代表がよく使う「情熱の魔法瓶」という言葉に共感して以来、ずっと応援しています。大企業の人たちに必要なのは、情熱。留職を通じて今後ますます情熱や志を持つ人が増え、クロスフィールズが企業・行政・NPOに橋をかける存在として、さらに発展することを期待しています。



One JAPAN共同発起人・代表
パナソニック株式会社 アプライアンス社
濱松 誠さま
濱松さまは賛助会員としてクロスフィールズの活動を応援して頂いています

Message from Cross Fields クロスフィールズからのメッセージ

社会へのインパクトにこだわり、ビジョンの実現に向かって邁進

旗艦事業である留職プログラムでは参加者数が約150名となり、また、2017年度に注力した「社会課題体感フィールドスタディ」は事業として大きな飛躍を遂げました。また、ソーシャルセクター支援事業でも2期連続でトヨタ財団の助成金を活用したプログラムの実施が決まるなど、昨年度は力強い発展のあった1年でした。そんな中、2018年度は「価値へのこだわり」をスローガンとします。自分たちは各ステイクホルダーにどれだけの価値を提供し、社会にどんな価値を生み出しているのか。そこに真摯に向き合いながら、1つ1つの活動に全力で挑んで参ります。



今年度より新たな経営チームで事業を行って参ります
(写真左から久米澤、松島、小沼、中山、西川)

Media Recognition メディア掲載

39回

- 新聞・雑誌:16回 Forbes Japan「新しいイノベーション!日本の担い手99選」、週刊東洋経済、月刊人材ビジネス等
- ウェブ:13回 Harvard Business Review、Japan Times等
- テレビ・ラジオ:9回 テレビ朝日「あいつ今何してる?」等
- 書籍:1回 未来を変える目標 SDGsガイドブック

Talk Sessions & Events 講演・イベント

- 講演:35回 日本の人事部HRカンファレンス「タフな環境で飛躍できる人材の見極め方〜グローバル越境プログラム7年間の分析結果」、日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム「働き方改革」とにっぼんの将来」等
- イベント:19回 企業研究会共催フォーラム、アラムナイフォーラム等

Financial Statement FY2017 2017年度収支報告(2017.6-2018.5)

科目		2017年度実績
収入	事業収入	130,444,980
	受取会費	921,000
	受取寄付金	312,748
	受取助成金等	6,340,000
	その他収入	4,837,462
当期収入合計		142,856,190
支出	事業費	117,187,361
	管理費	6,801,804
	法人税等	1,772,000
当期支出合計		125,761,165
収支	当期純損益	17,095,025
前期繰越正味財産		60,078,531
次期繰越正味財産		77,173,556

注1)事業費は、主に人件費、旅費交通費、保険料、支払報酬料、広告宣伝費、消耗品費、会議費など
注2)管理費は、主に地代家賃、支払報酬料、水道光熱費、支払手数料、消耗品費など

監事署名 *M/G 3/23/17*

ANNUAL REPORT

2017-2018



Beyond the Border,
Create the Future.



特定非営利活動法人クロスフィールズ
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F
TEL:03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp

クロスフィールズ 検索 http://crossfields.jp CROSS FIELDS



インド・ムンバイ市内のゴミ処理施設を訪問するSocial Innovation Mission参加者の日本企業の役職者たち

社会課題の現場と企業をつなぎ、 確かな社会インパクトを創出

2011年の創業以来、クロスフィールズは「留職」の事業を中心として日本を含むアジア10カ国、136団体の社会課題の現場と、日本企業45社で働く760人のビジネスパーソンとの間に橋をかけ、それぞれの挑戦に伴走してきました。



Projects 2017-2018 / 2017年度のプロジェクト事例と過去7年間の累計実績

Corporate Volunteering Program [留職プログラム]

参加人数 142人 | 企業数 32社 | 派遣国 10ヶ国 | 団体数 78団体
※2011~2017年度の累計実績

社会課題の現場にビジネスパーソンが飛び込み、本業のスキルを活用して現地団体が抱える課題解決に取り組むプログラム。新興国の社会課題解決と、日本企業のリーダー育成とを同時に目指す。

Case 125 Indonesia / 2 months

自分の信念に従い、臆することなく、やりたい貢献を積み重ねる経験

電源開発株式会社 / 人事職 / 金谷 隆広さま

貧困層に安価な浄水フィルター設備を製造・販売するインドネシアの社会的企業に留職した金谷さんは、営業・マーケティングチームの採用活動や社員の契約書の改善、スキル強化施策の実施、労働時間管理や給与計算といった人事関連業務の効率化に取り組みました。日本の職場とは全く異なる環境下で「とにかく自分がやるしかない」と気づき、失敗を恐れずに積極的に取り組み続けた金谷さんは、現在この働く姿勢を社内に伝播させていくことに挑戦しています。



Case 126 Indonesia / 3 months

研究の先にある商品と社会について議論し、目に見える課題のその先にある様々な課題に気づく

味の素株式会社 / 研究職 / 姥貝 吏紗さま

オーガニック・フェアトレード商品の生産販売を通じて農家支援・女性支援を行うインドネシアの社会的企業に留職した姥貝さんは、品質課題の改善や既存商品のラインナップ拡充に向けた研究に取り組みました。日々課題を掘り下げの中で、団体側の科学的知識不足など、「研究のその先にある様々な課題」を体感し、商品開発とともに団体の方々への知識・技術の共有にも尽力して帰国。現在は研究の成果が作り出す商品や社会について考えながら研究活動を進めています。



アラムナイ(留職経験者)のコミュニティ化

隔月でのイベント開催

アラムナイが隔月で集まるイベントをクロスフィールズのオフィスで開催。参加者たちが帰国後の挑戦や直面している課題について議論し、会社の枠を超え刺激を与えています。



年次フォーラムの開催

年に1回、アラムナイが大規模に集まるイベントを開催。外部ゲストや、目覚ましい活躍をするアラムナイによる講演を受け、留職のその先の挑戦に向けた新たな気付きと学び直しの機会です。



留職プログラム7年間の分析 リーダー育成のメカニズムについての考察

過去7年間のデータを棚卸しし、「異質かつ成果が求められる環境において人が成長するためのメカニズム」を性格特性ごとに明らかにするとともに、タイプごとの成長の後押しのあるあり方を考察しました。本分析は、副代表・中田が著名なキャリア形成コンサルタントである伊賀泰代氏とともに共同で行いました。



Field Study [社会課題体感フィールドスタディ]

実施数 11件 | 参加人数 145人 | 企業数 18社 ※2015~2017年度の累計実績

Case 07 India / 1 week 複数社集合型

インドの社会課題の現場を「体感」し、世界の未来の姿を洞察する

本田技研工業、NTTドコモ他 / 6社13名



「Social Innovation Mission」と銘打ち、社会起点マインドの醸成と未来洞察を目的に、日本企業6社の役職者13人がムンバイ・バンガロールに1週間滞在して社会課題の現場を体感。アジア最大のスラム街の訪問やフィールドの視察とともに、テクノロジーを活用し酪農業界や僻地医療の変革に取り組む社会的企業等7団体のリーダーとの意見交換を行い、あるべき未来の姿について会社の枠を超えて考え抜きました。



国内外の社会課題の現場を「体感」して自らを内省し、困難な課題に立ち向かうリーダーの活動と志から刺激を受ける、日本企業の管理職・経営者向けのプログラム。

Case 10 福島県南相馬市 / 2 days 個社カスタマイズ型

自社の事業と社会との繋がりを考え抜き、会社のビジョンを腹落ちさせる原体験

PwCコンサルティング合同会社 / 役員4名を含む25名

幅広い職位・年次の社員25名が1泊2日で震災・原発の被災地、福島県南相馬市を訪れ、被災地域の視察及び復興に取り組む4組織のリーダーとの対話を実施。「社会の重要な課題を解決することを体感し、目の前の業務と社会課題の解決をリンクさせることができた」、「担当するプロジェクトの先にいる人々のために仕事をしていきたい」といった参加者の気付き・決意が、組織の中に変革の風を起こしつつあります。



Workshop [社会課題解決ワークショップ]

実施数 31件 | 参加人数 473人 | 企業数 9社 ※2011~2017年度の累計実績

社会課題の現場に精通する国内外のNPOのリーダーとともに、社会課題を解決する事業アイデアの創出に取り組むアクションラーニング。

Case 22 首都圏 / 介護福祉・発達障害を取り巻く社会課題 / 1 day each

本質的な課題をとらえ、自分が社会的に出せる価値を見つけ、理想の未来に向かって取り組む

株式会社NTTドコモ イノベーション・研究開発部門 / 21名

介護現場や、発達障害児とその家族のケアに取り組む団体を1日かけて訪問。サービスが実際に提供される現場の視察や、団体のリーダーとの対話や事業創出に向けたディスカッションを実施しました。参加者からは「普段の研究業務と異なり、現場で直接話を聞きながら議論を進めることで本当のニーズを深掘りし、本質的な課題を発見できた」という感想が聞かれるなど、多くの気づきがある時間となりました。



Social Sector Empowerment [ソーシャルセクター支援]

実施数 3件 | 協働団体数 6団体 ※2016~2017年度の累計実績

社会課題に取り組むNPO/社会的企業のニーズに寄り添い、セクターや国境を超えた橋渡しによって課題解決をサポートする事業。

Case 3 トヨタ財団国際助成プログラム / 2 years

国境を越えた有機農業分野での学び合いと連携促進

Fargreen., JSC(ベトナム)、Good Food Community(フィリピン)、坂ノ途中(日本) / 3団体

「アジア地域における持続可能な有機農業の実践に向けた仕組みの構築」をテーマに、ベトナム・フィリピン・日本の3カ国で有機農業に携わる団体が協働、相互的な学び合いから事業成長に向けた示唆を得るための2年間のプログラムを推進。18年5月にはベトナム・フィリピンの各団体からスタッフが来日し、坂ノ途中が提携する生産者や販売店を訪問。品質管理や流通、組織マネジメントについて議論を繰り返しました。

